

環境 NEWS (第19回)



全日本サーフキャスティング連盟本部 環境部

大気中の二酸化炭素の量が増加しているという話は、よく耳にしますよね。

大気温の上昇により氷河の融けるスピードが早くなり、海水面が上昇し近い将来には一部が水没する国もあるとも指摘されています。また、海水温の上昇により釣れるサカナの種類が変化しているという話は以前にご紹介した通りです。

大気の変化は、釣れるサカナの種類が変化するだけではすまないようです。海洋生物の危機に直面しているとの指摘がありますので、ここにご紹介いたします。

つまりは、自然回復力を超えた急激な環境の変化により、海の中が悪い方向に大変革を起こしつつあるということかも知れません。

海洋が酸性化している



海は私たちの生活にとってなくてはならない存在です。海から得られる食料は世界最大のタンパク質源であり、30億人以上が体に必要なタンパク質を海の恵みに頼っています。そして、30億人以上の人びとが海洋および沿岸の生物多様性を頼りにして生計を立てています。

海は、魚介類などの食べものをえる場というだけでなく、私たちが暮らす環境も守ってくれています。地球の表面の4分の3を占める海。その海水の量は、地球上の水の実に97%にあたります。この海洋が、人間が生産する二酸化炭素の約30%を吸収し、大気中の二酸化炭素濃度を調整し、熱の吸収などを行うことで地球温暖化の影響を緩和しています。

しかし、今日、人間の活動によって大気中にさらされる二酸化炭素が増加し、海が以前より多くの二酸化炭素を水中に取り込むことで、海水の成分が酸性化する「海洋酸性化」が進んでいます。

海洋酸性化によって、たとえば、サンゴが死んだり、育たなくなったりすると、サンゴをすみかにしていたさまざまな別の生き物も影響を受け、めぐりめぐって、多くの海洋生物が命の危険にさらされることとなります。

酸性化はすでに海の生態系に大きな影響をおよぼしていますが、この海洋酸性化は、大気へ排出される二酸化炭素の量が増えれば、それに応じてこれからも進むと言われています。